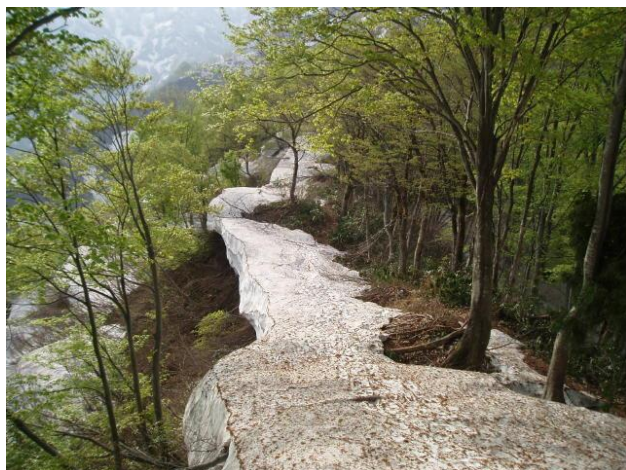
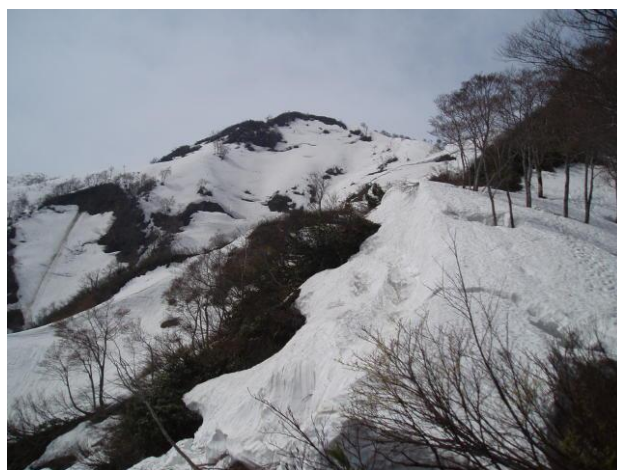


越後駒ヶ岳 (途中まで) 山行記録



ブナの残雪尾根



ニセ小倉山

| | | | |
|-----|--------|-----|------------------------|
| 目的地 | 越後駒ヶ岳 | 期 日 | 平成17年5月1日 (日) |
| 山行人 | 笠原正雄単独 | 特 記 | 俺以外に入山者無くニセ小倉山手前で引き返す。 |

| 地 点 名 | (着) ~ (発) | 天候 | 記 事 |
|--------------------|------------|----|--|
| 与 板 | 午前3:45 発 | | |
| 駐 車 地 点 | 5:05~5:45 | 薄曇 | 「この先危険、入ってはいけません」のカラーコーン 2 箇所あり。移動して進入する。数メートル間のみ雪で先へ進めず。一度大湯へ戻り、再度トイレする。群馬ナンバーの箱バンと軽1台。いずれも登山者では無い。 |
| 灰の又バス停 | 6:00 | 〃 | その雪を乗り越えて、ここまで舗装道歩き。ここから雪の上へ上がる。踏み跡は今朝のものではない。僅かに路肩が見える所もあったが雪が多い。 |
| 吊り橋 | 6:25 | 〃 | 駒ノ湯は人気なし。橋は尺板1枚があるのみ。横ばいで渡る。 |
| 夏道へ | 6:45 | 〃 | 踏み跡に従い雪の急傾斜を上がり、ここで1枚脱ぐ。 |
| 休 む | 7:05~7:15 | 〃 | やや緩登となり、雪の道の小高い所で休む。 |
| 646 標高点 | 7:30 | 〃 | 通過。後続者を期待してゆっくり歩くが全く気配が無い。 |
| 916 標高点 栗ノ木ノ頭 | 8:15~8:30 | 〃 | 夏道の上に道標が倒れている。かろうじて読める。「駒の湯 2.5/小倉山 2.5 km」か。 |
| 1026 標高点 | 8:50 | 〃 | 雪の上を歩いている。このあたりブナの新緑がきれいだ。 |
| 岩の小ピーク (引き返し地点) | 9:05 | 〃 | ニセ小倉への登りの手前、岩に腰を下ろそうとしたらポケナビがネジから外れ、落としたことに気付いた。これ以上先へ進むなという啓示だと思ふこととし、ここで引き返す。雪のついた、この凶体の大きな山を完全単独登山では自信が持てない。目を凝らしながら下る。2~3分後に落としたナビを発見。 |
| 一杯やる | 9:35~10:00 | 〃 | 夏道の木の根に座り、持参のウイスキーの半量を飲む。途中断念の旨を家に電話する。あとは時間をたっぷりかけても良いことから、道端の花を愛でたり、新緑を楽しみながら下る。こんな山歩きもあることを知得した。 |
| 吊り橋 | 11:15 | 〃 | 今度は万全を期してストックをザックに取り付け両手でロープをたぐりながら渡る。 |
| 駐 車 地 点 | 12:05 | 〃 | この直前、三角スコップを持った男に会う。例年なら駒の湯の道は連休までには除雪されていると聞く。また、人が入るから山も清流も汚れる。だから山に登るな、「仙人は…サタラカサ…山を眺めて過ごす(記憶不確か)」と短歌を引用して、山は眺めて楽しむものだと言われ説教された。 |
| 与 板 着 | 3時ころ | 〃 | 湯之谷・薬師の湯で入浴。浴槽から権現堂山が良く見える。 |

昨秋、駒〜丹後縦走の時、十字峡下山後行動を共にした見附からの男の話を聞いて、今期前半の目標をここに定めていた。GWは4日しか休日が無いので日曜の本日に出掛けた。①駒ノ湯まで車で入れなかった。②他に入山者が無かった。この2つが気持ちを萎えさせた。特に②は決定的であった。いつか再挑戦しようと思う。

最後に頑固親父に出会ったが、言い分は一理あるとは思いますが、「和」という言葉も突き詰めれば人工である。どう言われようとも、どっぷりと山に浸かってしまったからには、彼の言うことを聞いてはられない。

完結はしなかったが、ここに至るまでの過程は自分なりに満足しており、納得の山行であった。

帰板後 YHC 田村さんに会い、報告する。